

志位委員長 国民中心党・辛代表 民主党・韓代表と会談

【しんぶん赤旗 / 2006年9月7日より】

【ソウル＝中村圭吾】志位和夫委員長は六日午前、ソウル市内の国民中心党本部に、辛国煥代表を訪問し、会談しました。

志位委員長を親しく自室に招き入れた辛代表は「先進民主主義のもとで国民に奉仕することをめざす国民中心党は、開かれた政党として世界のすべての政党と交流することを目指しています」と自党を紹介。「それは私たちの立場と同じです」と応じた志位氏は、今回、国会に議席を持つ韓国の五つのすべての政党と会談すること、さらにイスラム諸国を含め、互いに交流の意思のある世界のすべての国の政党と交流をすすめる日本共産党の対外関係の方針について述べました。

辛氏は「二十一世紀の世界経済は韓日中三国の北東アジアの時代だ」として、この三国が「過去の歴史を乗り越えて、北東アジアに経済共同体をつくり出すために努力する必要があります」と指摘。志位氏は、そのためにも日本が歴史認識をただすこと、北朝鮮を国際社会の責任ある一員として迎え入れるためにも六カ国協議の成功と「日朝平壤宣言」にもとづく諸問題の包括的な解決が必要だと指摘しました。

両氏は、今後も交流をすすめていこうと握手を交わしました。

志位委員長は六日午後、ソウルの国会に韓国・民主党の指導部を訪ね、党代表の韓和甲氏、張裳（チャン・サン）共同代表、李洛淵（イ・ナギョン）、李相烈（イ・サンヨル）両国会議員と親しく会談しました。

志位氏は、日本帝国主義が一九〇八年につくった西大門刑務所の跡地を前日に訪れ、戦前の日本共産党員たちが朝鮮の植民地化に反対し、独立を支持してたたかったことにあらためて誇りを感じると述べるとともに、この戦前の日本共産党員たちの、いわば「同志」ともいえる朝鮮の愛国者たちを追悼し、献花したことを紹介しました。

韓氏は、韓国が軍事独裁の時代に、自身も同刑務所に二年以上収監されていた経験を述べ、「民主党が共産党の代表を迎えるのは初めてだが、二〇〇〇年に金大中大統領が南北の首脳会談をやっていなかったら、そうしたことはできなかつただろう」と、韓国社会の変化を紹介しました。

韓氏はまた、民主党の対外政策を紹介して、「日本共産党とは対外政策で共通点があると感じた」とし、今後「両党間で多くの協力・協調ができればいいと思う」と述べました。

在日韓国・朝鮮人地方参政権法案の早期成立への協力を求められた志位氏は、選挙権とともに被選挙権についても保障することを明記している日本共産党の法案について紹介し、「与野党の法案の取りまとめと、法律の早期成立に尽力したい」とのべました。

韓代表は、両党が韓日親善に寄与できるよう協力することを提起し、両者は今後の交流の発展を約して会談を終えました。

東アジアの平和的発展・歴史問題 姜高麗大名誉教授・趙高麗大文科大学長と懇談

【しんぶん赤旗 / 2006年9月7日より】

【ソウル＝丸山聡子】韓国を訪問している日本共産党の志位和夫委員長は六日、韓国の著名な歴史家である姜萬吉（カン・マンギル）高麗大学名誉教授、趙珖（チョ・グァン）高麗大文科大学長と懇談しました。

この懇談は、日本の植民地支配に反対してたたかった韓国の独立運動家が投獄された西大門刑

務所跡地で始まりました。志位氏は、前日にも同所を訪問したことに触れ、「愛国者への追悼と、両国の友好関係のために訪問しました。私たちは日本の植民地支配とたたかい、いわば共同の受難の側にいました。初訪問ですが、心に通じるものを感じました」と語りました。

姜氏は、「歴史は、悪いこと、恥ずべきことについても学び、教えなければならない。私は親日反民族行為真相糾明委員会の委員長をしていますが、二度と同じ過ちを繰り返さないための活動だと、日本の人にも理解してほしい」と話しました。また姜氏は、軍事独裁政権時代の一九八三年からこの刑務所に収監されていた当時の思い出なども語りました。

三氏はその後、ソウル市内で、二十一世紀の東アジア地域の平和的発展の方向や、日韓両国の歴史問題について懇談しました。志位氏は一九三〇年代初頭の機関紙「赤旗（せっき）」を示しながら、日本共産党員が日本の植民地支配とたたかい虐殺された歴史を紹介。趙氏は、在日朝鮮人の虐殺について言及し、「同じようにたたかった人がいた歴史の事実は、韓日両国にとって非常に重要だ」と話しました。

また志位氏は、靖国神社の遊就館が、日清・日露戦争から太平洋戦争までのすべての戦争を「正しい戦争だった」としていることを、遊就館の資料を使って説明。姜氏は「これは、きわめて重大なことです」と発言。「二十世紀の平和を壊した責任は日本にあるのですから、歴史の事実をしっかり教えないといけない」と語り、志位氏は、「私たちの責任であり、私たちの子孫が胸を張って生きていくためにも必要です」とこたえました。

志位氏は最後に、「両国に同じようにたたかった勢力があったこと、お互いに知り合うことが大事だと思っています」と発言。姜・趙両氏は強くうなずき、「これは平和的な未来にとって必要です。今後さらにすすめていきたい」と語りました。

東アジアの平和で意見交換 韓国国会議長と会談

【しんぶん赤旗 / 2006年9月7日より】

【ソウル＝中村圭吾】韓国を訪問中の日本共産党の志位和夫委員長は六日午後、韓国国会の林采正（イム・チェジョン）議長と会談しました。志位氏は同日、国民中心党の辛国煥（シン・グクワン）代表、民主党の韓和甲（ハン・ファガプ）代表とそれぞれ会談しました。著名な歴史学者の姜萬吉（カン・マンギル）高麗大名誉教授、趙珖（チョ・グァン）高麗大文科大学学長や延世大学の学生・院生らと対話するなど、終日、各界との交流を広げました。国会の議長執務室を訪問した志位氏を、林議長は「日本共産党の志位委員長にお会いできて非常にうれしい」と歓迎。志位氏は「議長にお会いできて光栄です」とあいさつし、握手を交わしました。

林議長が「志位氏の初訪問が、有意義な滞在になり、訪韓の目的が達成されるよう願っています」と述べたのに対し、志位氏は、「韓国のすべての政党と会談することになりましたが、今後、私たちと韓国の政界全体との交流の道が開けることを願っています」と説明。同議長は「アジア政党国際会議に参加するため、韓国を初訪問されたが、それ自体がアジアのさまざまな政党関係、政治が発展している裏づけだと思う」と応じました。

志位氏が五、六の両日、西大門刑務所歴史館を訪問し献花したことを紹介すると、林議長は「感無量です。国民を代表して感謝したい。その行為は韓国の国民にとってなぐさめとねぎらいを感じます」と語りました。

さらに、林議長が西大門を訪れた目的を尋ねたのに対し、志位氏は「日本の植民地支配への反省とともに、私たち自身が犠牲者だったということから、ともにたたかった朝鮮の愛国者に対する追悼と連帯という二つの思いがあります」と語りました。林議長は「日本がこういう立場をとるならば、東アジアの緊張が緩和し平和がすすむでしょう」と述べました。

志位氏と林議長は、東アジアの平和の共同体をつくる上で歴史問題の解決が重要であり、また北朝鮮問題の解決が重要だとの意見を交換しあいました。志位氏は、北朝鮮による拉致問題、核問題と過去の清算の問題を「日朝平壤宣言」に基づき包括的に解決する必要があると強調しました。林議長は、日本共産党が資本主義のあとにめざす社会はどのようなものかと質問。志位氏は、これに答えました。

最後に両氏は、今後も機会がある時に交流を続けましょうと述べ合い、なごやかに会談を終えました。訪問にあたり志位氏は、日本三大祭の一つである祇園祭を西陣織りで織り上げた額織を同議長に贈呈しました。

ウリ党議長、ハンナラ党院内代表と 志位委員長が会談

【しんぶん赤旗 / 2006年9月8日より】

【ソウル＝中村圭吾】韓国訪問中の日本共産党の志位和夫委員長は七日午前、韓国国会を訪問し、最大野党ハンナラ党の金ヒョンオ（キム・ヒョンオ）院内代表と会談しました。午後からは、駐韓日本大使館で大島正太郎・駐韓大使と懇談した後、国会で与党・開かれたウリ党の金槿泰（キム・グンテ）議長と会談、記者会見に臨みました。志位氏は七日夕、第四回アジア政党国際会議の歓迎夕食会に出席。参加した各国の政党代表らと交流しました。

ウリ党（金槿泰議長）

ソウル＝中村圭吾】訪韓中の志位和夫委員長は七日午後、韓国国会で、与党・開かれたウリ党の金槿泰（キム・グンテ）議長と会談しました。ウリ党の崔圭成（チェ・ギョソン）議長特別補佐官、李啓安（イ・ゲアン）議長秘書室長、李泳鎬（イ・ヨンホ）議員が同席しました。

金議長は志位氏ら一行の訪問に歓迎の意を表明し、「韓国の国会で歓迎することができて感無量です。国民が大統領を直接選ぶようになった八七年より前だったら、（軍事独裁政権時代に民主化運動弾圧に使われた）国家保安法違反で裁判所に立たされていたでしょう」と述べました。

金議長は、北朝鮮のミサイル問題について「日本での憂慮は承知していますが、先制攻撃の可能性まで取りざたされていることはたいへん難しい事態です」と指摘。「ウリ党は国連決議を通じて朝鮮半島と東アジアで平和を守るのに積極的な立場ですが、最近の日本を見ていると非常に心配です」と語りました。

金議長は小泉首相の靖国参拝について「過去の不幸な侵略戦争と植民地支配を正当化しようとしていることは、日本だけでなく東アジアにとって危険です」と強調。「憂慮を伝えるのは、侵略の犠牲になった国民だからではなく、正しい認識を持たないと東アジアと日本にとって明るい未来が開けないからです」と語り、「日本共産党の役割に期待しています」と述べました。

志位氏は、「訪韓を長い間、願ってきましたが、実現し、このような形で迎えていただき、私も感無量です」と発言。金議長の憂慮は「よく理解できます」と前置きしたうえで、創立以来、侵略戦争と植民地支配に抗してたたかった日本共産党の歴史を説明し、「私たちは日本で、靖国問題や教科書問題など歴史の逆流を許さないたたかいをしています。私たちの党の存在意義をかけて歴史問題の解決に力を尽くしたい」と述べました。

会談ではウリ党側から日韓 F T A（自由貿易協定）についての要望が出され、志位氏は両国国民がともに繁栄できる方向が必要だとの見解を説明。同時に両国間のどんな難しい問題でも歴史問題での共通の認識を基盤にすれば、冷静に話し合っ前に進めることができるとの考えを述べました。

志位氏は、東アジアでの平和の共同体づくりを進めるうえで、北朝鮮核問題をめぐる六カ国協議の成功、南北共同宣言に基づく朝鮮半島の平和的統一、日朝平壤宣言に基づく拉致問題、

核問題、過去の清算の包括的解決 の三つの枠組みが重要だと指摘。金議長は「全面的に賛成です。私たちは議論しなくても感覚は似てますね」と応じました。

会談ではウリ党側から、日本共産党はいつまで弾圧されていたのか、地方議員で第一党となっている秘訣（ひけつ）を教えてほしいなどの質問も出され、志位氏はひとつひとつ丁寧に答えました。金議長からは日本共産党の地方議員、首長との交流を進めたいとの提案もあり、志位氏は「ぜひ交流を進めましょう」と賛意を述べました。

ハンナラ党（金ヒョンオ院内代表）

【ソウル＝中村圭吾】訪韓中の志位和夫委員長は七日午前、国会で、最大野党ハンナラ党の金ヒョンオ（キム・ヒョンオ）院内代表、李秉錫（イ・ビョンソク）院内首席副代表と会談しました。金代表は、志位氏の訪問に歓迎と謝意を表明。「日本共産党とは特別な関係がなかったのでハンナラ党の立場について説明したい」と前置きし、日韓関係について「植民地解放後、六十年間に韓日の人的、経済的交流は深まり、世界的にも重要な関係となったが、小泉首相の靖国参拝や、独島（日本名・竹島）について日本が文句をつけることは、韓国国民として遺憾です」と自党の立場を説明しました。

「韓日関係の未来のために、こうした問題の解決に協力してほしい」という金代表に、志位氏は、日本共産党が党創立以来、朝鮮の独立運動に連帯してたたかい弾圧された歴史を紹介。「あの時代に侵略戦争と植民地支配にあらがい迫害された共通の歴史が、韓国とわが党との交流を広げる歴史的基盤になっていると考えています」と述べました。

志位氏はさらに「次期首相に誰がなろうとも靖国神社への参拝を繰り返してはならない」と表明。「歴史を歪曲（わいきょく）するあらゆる逆行に反対です。同時に竹島問題については冷静な検討が必要です。両国国民の友好的未来のために協力しましょう」と述べました。

志位氏の発言を何度もうなずきながら聞いていた金代表は「貴党とは理念や支持基盤は違うが、韓日の未来のために協力すべきです」と語りました。

日韓双方が領有権を主張している竹島問題について、金代表が「韓国の領土であることを把握してほしい」と述べたのに対し、志位氏は、日本共産党が日本側の領有権の主張には歴史的根拠があるとする見解を発表していること、同時に竹島の編入は朝鮮半島を植民地化するさなかの一九〇五年に行われ、韓国側が異議を主張できる状況になかったことも事実だと指摘。「日本が植民地支配への反省を行うことを前提にしてこそ、冷静な話し合いができます。反省を土台にして両国が事実を付き合わせる共同研究が必要です」と見解を述べました。

志位氏の発言に金代表は「いいお話を伺いました。私は植民地時代にあったことは話しませんが、志位委員長が言及されたことは非常に意味があります」と応じ、「韓国国民全体が過去の傷を忘れられないでいる。日本政府が徹底的に反省すれば未来志向で進むが、日本政府の態度は、そこが不足している。それがあればどうして靖国参拝ができるのか」と述べました。

志位氏が靖国問題について「侵略戦争に命がけでたたかった私たちの存在意義にかけて許せません。これは私たち自身の問題です」と説明したのに対し、金代表は「日本共産党が出発した歴史的意義、侵略戦争に反対した精神がよくわかりました。歴史問題で協力ができます」と語りました。

東アジアの共同体をつくるためにも歴史認識の共有が必要だという志位氏に、金代表は「全面的に共感します」と表明。三十分余にわたる会談を終えました。

【しんぶん赤旗 / 2006年9月10日より】

【ソウル=丸山聡子】韓国のソウルで開かれている第四回アジア政国会議二日目の九日、全体会議で日本共産党の志位和夫委員長が発言しました。

志位委員長は冒頭、「この会議の開催自体が、分断と敵対から友好と平和へという、巨大な歴史的転換を象徴するものだ」と、会議の意義を強調しました。

つづいて、二年前の政国会議以降の世界とアジアの情勢の進展について言及しました。「自主的な地域共同体の動きが発展していることに注意を向ける必要がある」と指摘。東南アジア諸国連合（ASEAN）が結んだ東南アジア友好協力条約（TAC）に世界人口の53%を擁する諸国が参加していること、上海協力機構（SCO）が平和の機構として発展していることに触れ、「この方向にこそ、アジア諸国民の平和、友好、進歩、繁栄を保障する大道があることを強調したい」と語りました。

北東アジアについて、「六カ国協議の枠組みが、直面する困難を打開して核問題の解決をはかり、この地域の平和と安定のための共同の機構に発展することを心から願う」と訴えました。

平和なアジア共同体をつくるうえでの日本の役割について、五つにわたって日本外交の転換を提起しました。

第一に日本が過去におこなった侵略戦争と植民地支配を正当化する逆流を克服することです。志位委員長は、「一九二二年の創立以来、日本軍国主義の侵略戦争と植民地支配に命がけで反対をつらぬいた政党として、日本外交のこのゆがみをとりのぞくために力をつくす」と強調しました。

さらに、アメリカと、対等・平等の真の友好関係を確立する 軍事偏重でなく、外交による問題解決に徹する姿勢を確立する いかなる国でも覇権を認めず、国連憲章にもとづく平和秩序を守り、被爆国の政府として地球規模での核兵器廃絶を緊急課題として追求する 社会制度の異なる諸国の平和共存および異なる価値観をもった諸文明間の対話と共存の確立に力をつくす の四つを提起し、「平和のアジア共同体を実現するために、力を合わせよう」と呼びかけました。

以上